

～ヨーロッパ最新情報～

7月1日付で、感染症危険情報が変更され、以下の国が新たにレベル1となりました！

アンドラ、イタリア、オーストリア、キプロス、ギリシャ、スイス、ドイツ、フィンランド、フランス、ベラルーシ、マルタ、ラトビア、リトアニア、リヒテンシュタイン

また、以下の国は5月26日よりレベル1が継続しています。

アイスランド、アイルランド、英国、オランダ、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ノルウェー、ベルギー



また、6月1日以降、日本の水際措置が見直されています。

※引き続き、全ての国からの入国者に対して、出発国出国前72時間以内実施の陰性証明書の提出が求められます。

※当情報は今後変更がでてくる可能性がございます。各国の大使館・領事館からの情報や、航空会社等、多方面からの情報収集と併せてご確認をお願いします。

情報提供: ミキ・ツーリスト

AUSTRIA (オーストリア)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ヨーロッパ、アメリカ、南米などからたくさんの観光客が訪れ、観光客向けのコンサートなど、コロナ前と同じ様に満席になる日ができるほど、活気が戻ってきています。また6月23日にコロナワクチン接種義務が正式に撤廃されました。

日本からの入国情報	[6月27日時点] 完全開国 入国に対する規制・規制は撤廃され、陰性証明などの提示も不要となっています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月27日時点] Grüner Pass(Green Pass)というアプリに接種証明、陰性証明等の情報 (SMSやEメール等で届くQRコード) を読み込ませます。アプリがなくても、接種証明書等を飲食店等でそのまま提示しても問題ありません。病院・介護施設で3G証明書提示を義務付ける以外は全て撤廃されました。
マスク着用義務	[6月27日時点] マスク着用義務は停止しています (現行では8月末まで)。 ※病院・老人ホームなどの医療施設での着用義務は継続 ウィーン州のみ、公共交通機関・薬局での着用義務の継続
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月27日時点] 契約検査機関により、検査結果は2時間から24時間以内に送付されます。第三者に結果を送信する場合、委任状が必要です (みゅうのPCR検査の商品は、MIKIに結果を送ってもらってから、チェック後お客様にお送りしています)。



レジデンスオーケストラのコンサート
アウエルスペルク宮殿

BELGIUM (ベルギー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

コロナ前の状態に戻っており、6月のブリュッセル自転車レース2022も普通に開催されました。

日本からの入国情報	[6月28日時点] 完全開国 5月23日から、EU外からの必要不可欠ではない渡航の禁止は、解除されています。また1日目及び7日目の検査義務、10日間の検疫、渡航者位置特定フォーム(PLF)、ワクチン接種証明、回復証明または有効期限内の検査結果の提示義務もなくなりました。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月28日時点] 5月23日からバロメーターによる規制が休止しており、必要ありません。
マスク着用義務	[6月28日時点] マスク着用義務は、病院、医務室（医師のいる場所）及び薬局を除き、あらゆる場所においてなくなりました。公共交通機関におけるマスク着用は義務ではありません。しかし、非常に多く人が行き交う場所または老人ホーム、歯科、理学療法所、心理療法所、言語療法所などのケアを行う環境においては、マスク着用が推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月28日時点] 日本語で対応してくれ、グループの受け入れ可能な検査機関がありますが、支払いが現地払いのみとなります。立替払いを希望する場合、アシスタントを手配して、支払を委託することになります。

CZECH (チェコ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

6月は好天気にも恵まれ気温が30℃を超える日もあり、行楽地は国内外の観光客で溢れています。場所によってはコロナ禍前の観光客数の水準に戻ったところも多くあります。アジアの観光客は徐々に戻りつつありますが、残念ながら日本人観光客を見かけることは殆どありません。オミクロン株のBA.5が流入して感染者数が5月と比較して多少増えておりますが、街行く人は地元の人も外国人観光客もほとんどがマスクをせずに夏を満喫しています。

日本からの入国情報	[6月27日時点] 完全開国 チェコに入国する全ての人の検疫等に関する制限は解除されています。すべての渡航者は、渡航前に入国フォームを記入する必要もなく、PCRテストの結果や新型コロナワクチンの接種証明書を携帯する必要もなくなりました。ただし日本からチェコへの直行便が無いため、途中経由地（乗り換え国）や利用する航空会社が要求する場合には、それらの書類が必要となります。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月27日時点] 国内でDCCを提示するような機会はほぼなく、実質的には国外への旅行の際のみ、行き先によってワクチン接種を証明する必要があるときにのみ利用されています。
マスク着用義務	[6月27日時点] FFP2 / KN 95等のレスピレーター着用義務が医療・福祉機関においても撤廃されています。ただし医療・福祉施設の判断で着用が必要と判断する場合は、その旨を掲示することもあり得ます。また、屋外でのFFP2、KN95等のレスピレーターの着用も不要となっています。ただし他人と最低1.5mの距離を確保できない場所（屋内外共に）では、レスピレーターが少なくともサージカルマスクを着用することが強く推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月27日時点] 空港のPCR検査場では日本帰国用のフォーマットに記入をしてくれます。ただし支払いは現地払いでかつ事前予約は出来ません。現在プラハ市内（及びチェコ国内）でPCR検査をする機関と契約を進めており、日本帰国用のフォーマットの記入もインボイス支払いも可能になる見込みです。追加料金でナースをホテルに呼び、そこでPCR検査することも可能となる見込みです。検査結果が出るのが採取から3~48時間が一般的。ただし、PCR検査を受ける人が徐々に減少しており、今後こういった検査場の閉鎖が懸念されます。またほとんどの検査場が日曜・祝日は開いていません。



DENMARK (デンマーク)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ヨーロッパ、アメリカなどからの観光客が戻っており、コロナ前の混雑に戻りつつあります。一般生活はコロナ前の状況と全く変わりません。7月1日から3日まで、世界最大の自転車レースの一つ「ツールドフランス」がデンマーク（コペンハーゲン～ユトランド半島）で開催される為、サイクリング好きの国民は盛り上がりを見せています。開催中は大変な混雑と交通機関への影響が予想されています。

日本からの入国情報	[6月28日時点] 完全開国 デンマーク入国に関する制限・規制は全撤廃となりました。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月28日時点] ワクチン接種1回目から約14日以降にオンラインにて「EU COVID-19 certificate」の取得が可能となります。なお規制は全て解除となっており、国内ではDCCの取得は不要となります。
マスク着用義務	[6月28日時点] 規制は全て解除となっておりますが、病院やケア施設への訪問時には引き続きマスク着用が求められることがあります。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月28日時点] デンマークは医療費無料で私立クリニックが少ない上（法人契約や専門医療などを利用）、コペンハーゲン空港が市内から近距離にあるため、コペンハーゲン・カストルupp空港検査機関を利用することをお勧めします。各自治体のコロナ検査センターでは証明書が発行されません。（陽性の場合のみ本人に連絡。居住者は専用サイトに個人番号を使ってログインし結果確認する形式です。）

FINLAND (フィンランド)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

昨年12月からオープンしているヘルシンキ空港の新しいターミナル運用が本格的に始まっています。以前に比べて営業するお店・レストランがかなり増えましたが、まだ一部工事中で搭乗エリアによっては移動に時間がかかります。外国からの観光客で空港はかなり混雑しており、チェックインを機械で済ませてからの荷物預けとセキュリティーチェックに時間がかかるのでフライトに遅れる人も出ています。

日本からの入国情報	[6月28日時点] 完全開国 6月30日にフィンランド入国規制が全廃されると発表されています。今まではEUやシェンゲン域以外からの入国に関して、国境地点で求められれば証明書提示やコロナ検査の可能性がありましたが、7月1日以降は不要となります。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月28日時点] ワクチン接種から約5日以降にオンラインにて「EU COVID-19 certificate」取得可能。イベントでは主催者が自主的にコロナパスの確認を行っていましたが、現在は規制解除となっており国内では不要となります。
マスク着用義務	[6月28日時点] マスク着用推奨も解除となり、フィンエアー機内でのマスク着用義務も4月25日より解除となっています。(但し、渡航先・出発国の当局が要求する場合はマスク着用が必要になる場合もあり)
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月28日時点] ヘルシンキ市内・空港のプライベートクリニックで有料PCR検査を実施していますが、日本帰国用のフォーマットへの記入に関しては、(同系列であっても)それぞれのクリニックにより取扱いが異なる為、申込時、検査時にしっかりと確認が必要です。なお現時点では、基本各クリニックの予約時に支払いが必要となります。



FRANCE (フランス)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

完全にコロナ前の日常生活が戻っております。屋内外問わずマスクを着用している人はほとんどいません。約2年間中止になっていたフェスティバルやコンサートなどの各種イベントも、今年は軒並み再開されています。欧州や米国からの観光客に加えて、アジア人観光客も少しずつ見かけるようになりました。

日本からの入国情報	[6月27日時点] 日本は最も規制の少ない「緑」に区分されており、渡航理由にかかわらず入国可能です。●搭乗にあたっての検査：①ワクチン接種済みの場合：必要なし。②ワクチン未接種の場合：72時間以内のPCR検査または48時間以内の抗原検査の陰性証明、もしくは、罹患した際のPCR検査または抗原検査の11日以降6ヶ月以内の陽性証明が必要。●到着にあたっての検査/到着後の隔離：なし
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月27日時点] ワクチン・パスが必要となる場所はありません。病院、高齢者施設、障がい者施設では証明書が必要ですが、ワクチン・パスではなく、ワクチン接種証明、陰性証明、回復証明のいずれかを提示すれば問題ありません。
マスク着用義務	[6月27日時点] 屋外でのマスク着用義務は終了しました。病院などのワクチンパスまたは衛生パスの対象となる閉鎖された場所を除き、マスク着用は必須ではなくなりました。(ただし多くの屋内施設では、マスク着用が推奨されています。)
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月27日時点] 日曜・祝日は多くのラボが休みのため、手配不可となります。



パリ
ウエズレー大聖堂

GERMANY (ドイツ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

6月27日にHNDからFRAへ到着する機会がありました。空港職員とお店の店員はマスク無しがほとんどでしたが、乗客の約5割はマスクを着用していました。空港は混雑しており、お店も普通に営業していました。FRA空港のセキュリティチェックは相変わらず時間がかかり、担当職員はPCやタブレットを鞆に入れたままの場合に、より時間をかけてチェックしているようでした。ちなみにAMS空港のセキュリティチェックではPCやタブレットを鞆から取り出そうとすると、そのまま良いと声をかけられます。

日本からの入国情報	[6月28日時点] 完全開国 6月11日から、入国理由を証明する資料が提示不要となり観光や知人訪問も可能となりました。加えて、日本を含む第三国からのドイツ入国に際の際の各種証明書（ワクチン接種証明書、陰性証明書、快復証明書）提示義務も撤廃されています（6月10日以前は、EU圏内の居住者等に限定されていましたがこの限定が解除されました）。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月28日時点] ワクチン接種証明書"CovPass"が運用されており、接種時にワクチン手帳（Impfpass/Impfbuch）に必要情報が記載されます。手帳の提示により出入国やショッピング・飲食店利用時に証明書提示が免除となります。ドイツではそれに加え、デジタル証明の運用が開始され、専用アプリを介して取得が可能です。※発行は任意
マスク着用義務	[6月28日時点] 公共交通機関、医療機関や介護施設など特定の場所でのみ、医療マスク（FFP2、KN95/N95マスク）の着用義務が継続中です。違反すると最低50ユーロの反則金が課されます。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月28日時点] グループ予約に対応している検査施設は、まだ少ない状況です。



ミュンヘンの新市庁舎と中央駅

GREECE (ギリシャ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ギリシャでは本格的な夏を迎えています。6月に40度を記録し、危険な暑さとなっています。この暑さもあり、屋外でマスクをしている人はほとんどいません。屋内でも、マスク着用規制が残っている公共交通機関や病院以外では、マスクを着用する人は少なく、コロナ前の日常に戻っています。

日本からの入国情報	[7月1日時点] 完全開国 5月1日以降、ギリシャ国内線・国際線における COVID-19 関連の制限措置が解除されています。これに伴い、新型コロナウイルスワクチン関係の証明書（ワクチン接種証明書、治癒証明書及び陰性結果証明書）の提示は不要となっています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[7月1日時点] ギリシャもDCCの運用が開始していますが、EU以外の第三国からの外国人は書面での提示でよいとされています。なお、レストラン（屋内）や博物館（屋内）入場時の提示義務は解除されました。（※ただし、一部例外（官民の非免疫者の従業員、緊急救命除く医療機関での付添人等）で、証明書の提示が引き続き求められる場合があります。）
マスク着用義務	[7月1日時点] <ul style="list-style-type: none">●鉄道、市内バス、トラム、タクシー、フェリー（デッキを除く）、地下鉄など・交通機関内（駅内等含む）ではマスク着用義務・二重マスク（サージカル及び布製）または高規格マスク（FFP2、N95）の着用義務●遺跡、博物館、飲食店での着用義務はないが、施設側の判断によって、感染対策が講じられる場合がある。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[7月1日時点] 12時間で結果が出る場合もありますが、結果判明までは24時間を見ておいてください。また英語が通じる病院も多いですが、念のためアシスタントを手配することをお勧めしています。他国と同様にPCR検査の需要が減ってきており、今後検査機関の減少が予想されます。ご注意ください。

HUNGARY (ハンガリー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ハンガリーではコロナ関連の規制が撤廃されており、レストラン、入場施設などスムーズに利用ができています。陰性証明を提示する機会も無いので、活動はコロナ以前に戻っています。ハンガリーもここ一週間ほどで日中30度越える日が出てきており、既に夏が訪れています。待ちゆく人たちもサンダルにTシャツ、ハーフパンツ、サングラスと暑さ対策の格好です。

日本からの入国情報	[6月30日時点] 完全開国 入国規制が撤廃されています。 入国時のPCR検査やワクチン接種証明書などの提出も不要です。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月30日時点] 3月7日より規制が撤廃されたため、ワクチン証明などを見せる必要がなくなりました。
マスク着用義務	[6月30日時点] マスク着用義務は撤廃されています。
日本帰国用PCR検査に関する 一般的な注意事項	[6月30日時点] 検査結果が出るまでに12~24時間見ておいてください。また今後PCR検査機関の減少が予想されます。ご注意ください。

ITALY (イタリア)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

1日当たりの新規感染者は減数傾向にありますが、6/22付けで、9/30まで公共交通機関や運転手付きのプライベートカー及びバス車内におけるマスク着用義務が延長されました。ただし、屋外ではマスクを着用している方はあまり見かけません。各都市は個人・団体観光客で賑わいを見せており、レストランや入場箇所の予約も取りにくい状況が続いています。

日本からの入国情報	[6月24日時点] 完全開国 イタリア入国のためのCOVID-19グリーン証明書に係る保健省命令は期限切れとなり、関連措置は延長されない旨を発表しました。したがって、6月1日以降、イタリア入国の際にCOVID-19グリーン証明書（ワクチン接種証明、治癒証明、陰性証明のいずれか一つ）又は同等の証明書を提示することは不要となります（※日本から入国する場合も、ワクチン接種証明やPCR検査、抗原検査の陰性結果を提示することは不要です）。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月24日時点] 5月1日よりグリーンパスの提示が殆どの場所で不要となりました。（老人ホームや病院では2022年12月31日までグリーンパスの提示が求められます。）
マスク着用義務	[6月24日時点] 劇場、映画館、催しの着用義務は撤廃されましたが、以下の場合は着用が義務付けられています。 <ul style="list-style-type: none">●交通機関の利用ではFFP2マスクが依然として義務。●医療施設、介護施設、ホスピス等の従事者、利用者、訪問者にはマスク着用が義務付けられる。●公共または一般に開かれた屋内の全ての場所でマスク着用が推奨される。 ※以下の者はマスク着用の義務はない。 6歳未満の子供。マスクの着用に適さない疾患や障害を持つ者。また、障害者と意思疎通をする上でマスクの着用が不適当な者。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月24日時点] イタリア主要都市（ミラノ、ヴェニス、フィレンツェ、ローマ）にてクリニックと契約しています。検査可能な日時はクリニックにより異なりますが、いずれも日曜・祭日の検査は不可となります（土曜は時間が限られています）。検査結果は通常48時間で入手できますが、追加料金を払うことにより、当日受け取りが可能な場合もあります。最近では需要減少のため、PCR検査を行う検査機関が減少、または検査時間の短縮を行い始めています。

IRELAND (アイルランド)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

コロナ禍となって3度目の夏を迎えています。他者との接触を避けて過ごしていた日々が遠い昔の事のように、街中でマスクをしている人も見掛けなくなり、朝夕の交通渋滞も元通りになって久しく、街の様子は完全にコロナ前に戻っております。アメリカや欧州内からの旅行者もベストシーズンを迎え一段と増えており、観光地はかつての賑わいが戻ってきています。

日本からの入国情報	[6月30日時点] 完全開国 入国に関わる制限は全て撤廃されています。到着時のワクチン接種証明、回復証明、PCRテスト陰性結果の提示、及び旅客所在確認フォーム(Passenger Locator Form)の記入が、全て不要となっています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月30日時点] 国内における屋内のホスピタリティ・娯楽施設に関する規制は全て解除され、これらの施設に入場する際の、ワクチン接種証明書も不要となっています。
マスク着用義務	[6月30日時点] マスク着用の法的義務は解除されています。ただし公共交通機関や医療機関などでは、マスク着用が引き続き推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月30日時点] 各国の規制解除によりPCR検査の需要が減ってきており、今後検査機関の減少が予想されます。ご注意ください。

NETHERLAND（オランダ）



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

6月4日に空港を利用しましたが、大変な混雑で出発4時間前まではフロアにも入れませんでした。出発フロア前からチェックインカウンターまで20分近くかかり、優先レーン利用でも、セキュリティチェックにたどり着くまで更に45分。チェックを通過すれば、後は通常通りでした。
6月27日に利用した際にも、着陸後の準備で30分後になって用意されたバスに乗ったり、優先タグ付きの荷物がでるまで45分くらいかかりました。
これは空港のスタッフ不足が原因のため、しばらく続くものと予想されています。

日本からの入国情報	<p>[6月28日時点] ■ワクチン接種者：空路で入国する者の健康申告書の提示義務も廃止され、通常の入国審査となります。■ワクチン未接種者：EUの入国制限措置対象のため、滞在許可を持つ方や特定の職業など入国制限の例外となる者以外、入国できません。 ※ワクチン接種証明書は、オランダ等で発行されたEUデジタル証明書（DCC）か、基準を満たす証明書である必要があります。ワクチン接種証明書を提示する場合には、ワクチン接種に関する申告書を提示する必要があります。</p>
DCC（ワクチンパス） 取得方法・運用状況	<p>[6月28日時点] コロナ・エントリー・パスが必要となる場所はありません。</p>
マスク着用義務	<p>[6月28日時点] 公共交通機関においてのマスク着用義務が撤廃されました。飛行機内とセキュリティーチェック以降の空港内においては、引き続きマスクの着用が義務付けられています。（13歳以上が対象。）違反者には95ユーロの罰金が課されます。</p>
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	<p>[6月28日時点] 弊社が予約代行を行っている検査機関は、結果が早い上に比較的臨機応変な対応が可能です。しかし、今後は検査機関の減少も予想されますのでご注意ください。</p>

NORWAY (ノルウェー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

男性同性愛者が非犯罪化されて50周年を記念して、6月25日にオスロ市内で大々的なイベントが開催予定でしたが、前日に市内で死者が出る銃撃事件が発生し中止となりました。警察がテロ容疑で犯人を現場で逮捕し、テロ警戒態勢が引き上げられています。現場付近に花を手向ける人も見られますが、市民生活は落ち着いています。6月下旬から夏休みが始まり、海外で休暇を過ごす人も増えていますが、現在交渉中のSASパイロットがストライキに突入すると多くの便が欠航することが予想されており大きなニュースとなっています。

日本からの入国情報	<p>[6月28日時点] 完全開国 全ての規制が解除となっています。原則、日本パスポート保持者への入国制限はありません。入国前登録、陰性証明、入国後の検査や自主隔離も不要です。</p>
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	<p>[6月28日時点] ワクチン接種後、オンラインにて取得可能。国内仕様とEU仕様の二種類ありますが、規制撤廃に伴い国内で使用することはありません。</p>
マスク着用義務	<p>[6月28日時点] 全ての規制が解除となっています。持病がある等の理由でマスクをしている人も稀に見られますが、大多数の市民はマスクなしで生活しています。</p>
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	<p>[6月28日時点] オスロは週末も対応するラボや短時間で結果が出るプランなどが比較的揃っていますが、PCRの需要が減っていることから状況は流動的です。ご注意ください。※アメリカの入国時コロナ陰性証明提示が撤廃された為、クリニックでのコロナ検査営業状況変更や検査所減少が加速すると予想されます。</p>



ベルゲンのブリッゲン



オスロ
 新国立美術館のムンクルーム

PORTUGAL (ポルトガル)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

相変わらず国内は至ってのんびりしています。コロナ以前を凌ぐ勢いの観光客はその勢いを増しているようで、リスボン市内のホテル稼働率は平均70%以上となっています。2020年に空港内の移民局にて管理官による外国人の折檻死が発覚した後、政府は移民局閉鎖を発表しました。閉鎖時期は未定ですが、それ以降移民局の形態自体が崩れてきており、最近では空港のパスポートコントロールが無人となる事態が発生。入国待ちで5時間以上足止めとなる騒ぎに発展しました。

日本からの入国情報	[7月4日時点] 完全開国 ポルトガル政府は、新型コロナウイルス感染症に係る水際措置を更新し、ポルトガル入国の際のワクチン接種証明書及び陰性証明書の提示義務を7月1日付で撤廃しました。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月30日時点] SNS24 (国民健康保険サービス) のサイトよりオンラインで取得可能。現在、入国の際 (検問など国境警備があれば、その際も同様) など特別な場合にのみ提示義務あり。
マスク着用義務	[6月30日時点] 閉鎖空間でのマスク着用義務が撤廃されています。ただし高齢者入居施設、医療機関、公共交通機関内での着用義務は継続中です。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月30日時点] 検査結果は一般のPCRで24~48時間以内の受け取りですが、日、祝祭日はほとんどの検査機関が閉まっています。唯一受検可能な空港内検査場も予約不可で並びます。各検査機関、受付の時間帯曜日や金額などが流動的になっていますので、その都度再確認をする必要があります。



リスボン市内のバスケットボール場

SPAIN (スペイン)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

公共交通機関でマスク着用義務がある以外は、街中はコロナ前と全く変わらない状況です。今年の夏はコロナ前の2019年並みか、それを上回る数の観光客が見込まれており、国内旅行だけでなく国外への旅行、アジアを除く国外からのインバウンドも、完全にコロナ前の水準にまで回復しています。

日本からの入国情報	[6月27日時点] 「スペイン保健省への事前登録 (QRコード取得)」 + 「証明書 (ワクチン証明・陰性証明・回復証明のいずれか)」 で入国が可能です。なお事前登録は、スペイン保健省の専用ページ 「 https://www.spth.gov.es/ 」 又は専用の無料アプリ 「SPAIN TRAVEL HEALTH-SpTH」 から、スペイン到着の72時間前より登録可能です。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月27日現在] 入国時にEU Digital Covid Certificateを使用。取得方法は居住する州によって異なります。入店時等のワクチン証明・陰性証明の提示義務はありません。
マスク着用義務	[6月27日時点] 公共交通機関や医療機関等を除き、屋外・屋内ともにマスク着用の義務はありません (薬局入店時はマスク着用が義務ですので注意が必要です)。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月27日時点] 通常のPCR検査は、医療機関からの検査結果判明まで24時間ほどかかります (2, 3時間で結果の出るエクスプレス検査を除く。またすべての都市でエクスプレス検査が対応可能ではありません)。さらに記入事項の不備も散見されるため、修正のための時間も考慮して、PCR検査受診、結果受領には余裕をもったスケジュールをしてください。なお、多くの国において入国要件としてのPCR証明提示義務が撤廃されており、需要の減少に伴って、PCR検査場の数が減ってきているため、今後注意が必要です。



マドリッドのマヨール広場



セビリアの大聖堂

SWEDEN (スウェーデン)

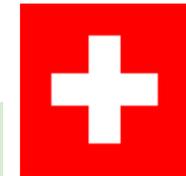


ヨーロッパから現地の声をお届けします！

変わらず、人々の生活はコロナ以前通り平常に戻っています。ただ、ストックホルムのアーランダ空港は、セキュリティーチェックの混雑状況がかなりひどい状況です。これまで空港へはより早めに到着することが強く勧められていましたが、不必要に早く到着する乗客でより混乱する状況が発生。現在はフライト出発予定時刻の3時間前からしか空港に入場できない措置が取られています。

日本からの入国情報	[6月28日時点] 完全開国 スウェーデン入国に関する規制は全撤廃されています。ワクチン証明、コロナ陰性証明、入国前の登録や入国後の隔離などありません。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月28日時点] ワクチン接種完了7日以内に国のワクチンデジタル登録されるので、その後ウェブ上でパーソナル番号等を入力して取得する。国内では規制解除の為、使用することはありません。
マスク着用義務	[6月28日時点] 現在は規制解除となっています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月28日時点] 市内ではプライベートクリニックにて日本帰国用の指定フォームでの対応可能な所はありますが、コロナ検査需要自体が減少している為、状況に関しては流動的です。

SWITZERLAND (スイス)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

通常通りです。6月中旬にはアジア大西洋ワークショップが行われ、また各地で夏のミュージックフェスティバルや様々なイベントで盛り上がっており、日本の除いて世界中からの観光客も戻ってきています。

日本からの入国情報	[6月30日時点] 完全開国 入国規制はありません。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月30日時点] 不要です。
マスク着用義務	[6月30日時点] マスク着用義務はありません。(州によって、医療施設はまだマスク着用義務あり)
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月30日時点] ・チューリッヒ空港で毎日可能で結果は3時間で出ます。日本指定の書式はメール送信でも結果判明後に空港でもらうことも可能です。テストはフライトの前日に受けることをお勧めしています。 ・ジュネーブではグループの場合、ホテルでの実施でリクエストベースとなります。 ・他都市(ルツェルン、インターラーケンなど)でも可能ですが、結果が出るまで一般的に48時間かかるので注意が必要です。



モントルー jazz フェスティバル



フィーストのレストラン

UNITED KINGDOM (イギリス)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

6月はプラチナジュビリーの祝賀行事が無事に執り行われ、最終日には英国各地の国民が路上でパーティーをして70年を祝う「ビッグ・ジュビリー・ランチ」も開催され、各地が祝賀ムード一色となりました。1年の中でも1番良い季節となり、現在テニスのウィンブルドン選手権も開催されている事もあり、ロンドン市内は観光客で溢れ、ホテル稼働率もコロナ前と変わらない状況となり、大いに賑わいを見せています。

日本からの入国情報	[6月30日時点] 完全開国 全ての水際措置が撤廃されています。これまで義務付けられていた乗客追跡フォーム(Passenger Locator Form)、ワクチンを完全に接種していない方の出発前検査及び入国後検査も必要が無くなっています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[6月30日時点] ワクチン接種証明書 (NHS COVID Pass) の提示義務はなくなっています。COVIDパスポートに関する政府のガイダンスも終了し、施設側にパスの運用を推奨する事もなくなっています。
マスク着用義務	[6月30日時点] マスク着用は義務ではなくなっています。ただし閉鎖された場所や混雑した場所にいる時、知らない人と会う時には、フェイスカバリングの使用が推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月30日時点] ・検査受検後にお客様のメールアドレスに検査結果が通知される形態になっていますが、メールの容量を超えていて受信に影響が出ることも発生しており、渡英後でも確実に受信が可能なメールアドレスの登録が必要になります。 ・各国の規制解除によりPCR検査の需要が減ってきており、今後検査機関の減少が予想されます。主要都市であっても、必ずしも便利なロケーションで受検出来るとは限らなくなってくる可能性があります。



ロンドン塔のスーパーブルーム



ロンドン
リージェント・ストリート